

I-B-9

大柴胡湯の血清脂質代謝および総頸動脈血流動態に対する効果

奈良県立医科大学 第1内科

○山野 繁、澤井冬樹、土肥和紘

【目的】高脂血症患者に対する大柴胡湯の効果を、血清脂質代謝および総頸動脈血流動態の推移から検討した。【方法】対象は総コレステロール220mg/dl以上あるいはトリグリセリド150mg/dl以上の高脂血症患者36例であり、性別は男性8例、女性28例、年齢は44～74（平均年齢62）歳である。大柴胡湯は、6g/日を6カ月間投与した。血清脂質代謝の指標には、治療前、治療3および6カ月後に測定した総コレステロール（TC、酵素法）、HDLコレステロール（HDL-C、沈殿法）、トリグリセリド（TG、酵素法）、βリポ蛋白（β-LP、免疫比濁法）、リン脂質（PL、酵素法）、過酸化脂質（LPO、TBA法）、遊離脂肪酸（FFA、酵素法）、動脈硬化指数（AI）、アポ蛋白A-I、A-II、B、C-II、C-III、E（Apo A-I、A-II、B、C-II、C-III、E、免疫比濁法）を用いた。また、総頸動脈血流動態の指標には、OFM-1000（林電気製）による右総頸動脈の平均血流量（BF）、平均血流速度（BV）、平均血管径（VD）、血管壁偏位（AD）、循環抵抗（Z）および容積弾性率（VE）を用いた。【結果】血清脂質代謝の指標中、HDL-C、PL、LPO、FFA、Apo A-II、C-II、C-IIIおよびEは、治療前後で有意の変動を示さなかった。一方、TC（mg/dl）は、治療3カ月後 224.6 ± 40.4 、6カ月後 238.6 ± 43.7 であり、治療前の 252.9 ± 51.9 に比してそれぞれ有意に減少した。TG（mg/dl）は、治療3カ月後 136.5 ± 62.3 であり、治療前の 153.0 ± 64.0 に比して有意に減少した。また、β-LP（mm）は、3カ月後 2.63 ± 0.44 、6カ月後 2.70 ± 0.63 であり、治療前の 2.84 ± 0.45 に比してそれぞれ有意に減少した。AIは、治療3カ月後 4.03 ± 1.58 、6カ月後 4.04 ± 1.72 であり、治療前の 4.84 ± 1.58 に比してそれぞれ有意に減少した。Apo A-I（mg/dl）は、治療3カ月後 136.9 ± 25.7 、6カ月後 133.6 ± 25.7 であり、治療前の 129.8 ± 27.4 に比して、それぞれ有意に増加した。一方、Apo B（mg/dl）は、治療6カ月後 116.7 ± 22.1 であり、治療前の 128.9 ± 33.6 に比して有意に減少した。総頸動脈血流動態の指標は、いずれも治療前後において正常範囲にあり、有意の変動を示さなかった。【結論】大柴胡湯は、脳循環に悪影響を及ぼすことなく、高脂血症患者の脂質代謝を改善させた。今後は、脳血流量低下例の脳循環に対する大柴胡湯の効果を検討する必要がある。